

知識や技能を習得し、それらを活用して探求していく学習の工夫

図画工作 第5学年

白山市立吉野谷小学校・教諭

1 事例の概要

児童達は、幼い頃から身近なものに興味を持ち、絵を描いたりものをつくったりする活動に関心を持ち、やがて自分の願いや思いを表す楽しさや喜びを感じるようになる。図画工作科では、児童一人一人のよさや可能性を十分に発揮させ、つくりだす楽しさを味わうようにするとともに、一人一人のよさを生かした造形的な創造活動の基礎的な能力を高めることが大切である。

本学級では、図画工作の時間が好きという児童がほとんどである。しかし、児童達の「好き」は、「絵を描くことは得意ではないけど工作は好き」「木工が好き」「作るの好きだけど考えるのが苦手」などである。このことから、工作や作ることは好きだけど絵は苦手で、考えたりイメージしたりすることが好きではなく、思い通りにできないという実態が考えられた。また、いろいろな学習活動の場面で必要な用具がうまく使えないという児童達の実態もあった。

そこで、児童一人一人が表現したいという思いを持ち、表わしたい気持ちに合わせて材料や用具を選び、その特性を生かしながら自分らしい表し方を思いのままに試し、表し方を工夫することができるような題材の設定を考えた。知識や技能を習得し、それらを活用し、さらに探求していくことができるような学習過程を計画するために「導入や展開の工夫」「活用の場面設定と活動時間の確保」「探求の場面での指導と支援」などを具体的に想定し、授業に取り組んだ。

2 実践内容

(1) 題材の目標

- ・ローラー遊びの楽しさを感じながら、その可能性を探ろうとする。
【造形への関心・意欲・態度】
- ・よさや美しさを感じながら、偶然できた形や色などから新しい発見をし、発想を広げ、表現方法を試したり、やり直したりしながら構想する。
【発想や構想の能力】
- ・経験したことをもとに、新しい使い方を試したり、さらに発展的な使い方を見つけたりしながら表し方を工夫する。
【創造的な技能】
- ・交流しながら、自分や友だちが見つけたことのよさを感じ取る。
【鑑賞の能力】

(2) 指導上の工夫点

- ① 児童のよさを生かす題材の設定・・・児童の実態把握、創作意欲につながる題材設定
- ② 発想を引き出し活用させる手だて・・・造形遊び、参考作品の提示、言葉かけのタイミング、わざのネーミング、どれどれタイム
- ③ 知識や技能を習得するための手だて・・・創作の広がりにつながる十分な材料と用具の準備、用具の技術指導の工夫
- ④ 評価の場面の工夫・・・展開の過程における評価（自己評価・相互評価）
- ⑤ 鑑賞の工夫・・・交流しあう鑑賞の場の設定

3 指導の実際

次	時	学習活動と児童の意識の流れ	●評価規準【観点】〈評価方法〉・○支援
一	1	<p>〈ローラーのすごわざを発見しよう！〉</p> <p>◇ローラー遊びをしよう。 ・ローラーで描くのは初めてだよ。 ◇ローラーをどのように使おうと、どんな模様が ができるか、思いきり試してみよう。 ・ローラーを回転させてみよう。 ・色の上に違う色を重ねて転がすときれい。 ・スタンプみたいになるよ。 ◇感想や見つけたわざを友だちに教えよう。</p>	<p>●ローラーの表現に関心を持ち、意欲的に 取り組もうとしている。 【関・意・態】〈行動観察・発言〉 ○失敗を気にしないで思いきり描かかせる。 ○手が止まっている児童にはローラーの 変わった使い方や色のつけ方を助言する。</p>
		<p>〈ローラーのいろいろなわざを試して「わざコレクション」をつくろう！〉</p> <p>◇ローラーをどのように使おうと、どんな模様が ができるか、どんどん試してみよう。 ・友だちが見つけたわざを試してみよう。 ・絵の具を何色かつけてみよう。 ・ローラーにひもを巻いてみよう。 ◇マスキングの手法を試してみよう。 ◇自分のコレクションを友だちに紹介しよう。</p>	<p>●自分の感覚や考えを働かせてローラーの 様々な使い方をいろいろな紙の上で試そ うとしている。 【発想や構想】〈行動観察・発言・作品〉 ○友だちのわざを見て回り、やってみたい などと思ったら、方法を教えてもらったり まねをしたりする「どれどれタイム」を とる。</p>
	<p>4 ・ 5</p> <p>◇ローラーの使い方を工夫して、美しい画面 をつくり出そう。 ・どの色の紙を使おうかな。 ・塩ビ板に模様をかくときれいだよ。 ・どのわざを使おうかな。</p>	<p>●表わしたい方法や用具を選び、自分なり の工夫を試みようとしている。 【創造的な技能】〈行動観察・作品〉 ○色の組み合わせ、わざの組み合わせを試 す紙を用意しておき、どんどん試させる。</p>	
三	6	<p>〈鑑賞会をしよう！〉</p> <p>◇自分の作品をみんなに紹介しよう。 ・題名と作品の雰囲気があっているね。 ・わざが生きているね。</p>	<p>●友だちの作品から表現のよさを見つけ、 多様な表現を楽しもうとしている。 【鑑賞の能力】〈発言・鑑賞カード〉</p>

C-1 指導案

C-2 授業記録

C-3 ふり返りカードと鑑賞カード

4 成果と課題

(1) 成果

製作途中の『どれどれタイム』は、手が止まっている児童の発想を引き出すことに効果的であり、友だちの作品のよさに触れることで教え合い学び合いという関わり合いができていた。また、もっとローラーの可能性を探りたいという思いはあっても、児童の知識や経験だけでは、発想や技能に限界がある。そんな時、全体に投げかけたり、一人一人の手を取って技を指導したり、適切な支援をすることで止まった思考や活動が動きだし深めることができた。手がかりをつかむことで技を試し、そこに自分なりの工夫を加えて自分らしい作品を制作することができた。

(2) 課題

図画工作科の学習における知識や技能の習得・活用・探求の場の持ち方をさらに考え、そして、何よりお互いのよさを認め合い刺激し合い高め合えるようなクラスづくりを心がけていきたい。

D-1 成果

D-2 児童の作品